

令和4年12月1日

加西市議会議長 原田 久夫 様

21政会・加西ともに育つ会
幹事長 森元 清蔵

調査研究報告書

下記のとおり行政視察研修を行いましたので、報告いたします。

記

1. 調査年月日 令和4年11月16日(水)～17日(木)
2. 視察先 大分県宇佐市・甘木鉄道・福岡県筑前町
3. 出席者 衣笠利則・佐伯欣子・原田久夫・深田照明
森田博美・森元清蔵・下江一将

4. 視察内容等

◇大分県宇佐市 11月16日(水) 13:00～15:00

(視察項目) 戦争遺構の保存と平和教育について

(視察対応者) 社会教育課長 野
ミュージアム建設準備室長 酒井
ミュージアム建設準備室 小川
議会事務局 秋場

(内容) 別紙のとおり

◇甘木鉄道 11月17(木) 9:30～10:30

(視察項目) 鉄道の経営改善と活性化について

(視察対応者) 専務取締役 鶴田
総務営業部長 石井
総務営業課長 川上

(内容) 別紙のとおり

◇福岡県筑前町 11月17日(木) 11:00～12:00

(視察項目) 大刀洗平和記念館の運営と平和教育について

(視察対応者) 館長 尾籠
事務長 岩下

(内容) 別紙のとおり

5. 所感 別紙のとおり

6. 添付資料

- ① 視察行程表
- ② 研修資料
- ③ 写真

《視察内容》

大分県宇佐市

【 視察項目 】 戦争遺構の保存と平和教育について

【 目 的 】 旧海軍飛行場にゆかりがある市町で連携する「空がつなぐまち・ひとつづくり推進協議会」のメンバーである宇佐市の戦争遺構の実態や保存の取組、平和教育について学ぶ。

【 内 容 】

1. 宇佐で学べる戦争の歴史

① 宇佐海軍航空隊は日本有数の練習航空隊であった。

昭和14年(1939年)実戦機を用いた訓練を担当する練習航空隊として開隊。訓練では、艦上攻撃機、艦上爆撃機が使用され、戦地に向かう搭乗員のほとんどが宇佐で訓練を行った。

② 真珠湾攻撃とのつながりがあり、令和元年にはホノルルと友好都市協定を結んでいる。

昭和16年10月からは、真珠湾攻撃に参加する航空母艦の艦上攻撃機隊が宇佐で訓練を行っている。真珠湾攻撃の第1弾を投下したと言われている高橋赫一少佐は、宇佐海軍航空隊の初代艦爆飛行隊長であった。

③ 宇佐からも特攻隊員が出撃している。

昭和20年2月に特攻訓練が命じられ、3月には実践部隊となる。「八番護皇隊」が編成され、4月2日以降、出撃基地がある鹿児島県へ移動し、特攻作戦に出撃した。延べ9隊105機193名が出撃し、8隊81機154名が亡くなった。

④ 人間爆弾「桜花」が配置されていた。

昭和20年3月18日、人間爆弾「桜花」を運用する神雷部隊が宇佐基地から出撃する直前に米軍機の空襲を受けたため中止となった。宇佐には多数の「桜花」が配備されたが、終戦まで宇佐からの出撃はなかった。

⑤ 空襲の爪あとが今に残っている。

昭和20年3月18日、宇佐は米軍艦載機による最初の空襲を受け4月21日に米軍の爆撃機「B29」による初空襲で、航空隊関係者だけで300人、民間人を含めると500人近い犠牲者が出たと言われている。宇佐海軍航空隊は昭和20年5月に解隊したが、宇佐は終戦まで11回の空襲を受けている。

2. 宇佐市平和ミュージアム(仮称)構想

意義と目的

宇佐には、かつての戦争により多くの命が犠牲になったことをはじめ、歴史を今に伝える遺構が数多く現存している。「我がまちも戦場であった」歴史を後世に伝えていく責務がある。

宇佐平和ミュージアムは、資料館と遺構郡で構成し、近現代における戦争の歴史を明らかにするとともに、多くの人々に「平和の大切さと命の尊さ」について考える機会を提供することを目的とする。

めざすもの

点在する遺構、現存する遺物、体験者の証言などを基に、戦争の歴史を伝え、「平和の大切さと命の尊さ」にふれる機会の創出をめざす。

宇佐海軍航空隊を中心とした戦争の歴史を掘り下げ、その事実を収集、保存、記録し、展示や公開をしていく中で、テーマである「平和の大切さと命の尊さ」を、自分の問題として身近に受け止めることができるように、より多くの人々が気軽に利用できやすい施設をめざす。

取組の経緯

平成 25 年 平和資料館開館

平成 26 年 平和ミュージアム基本構想・基本計画策定

平成 28 年 建築基本設計、展示基本設計が完了

平成 29 年 用地取得、造成工事が完了

平成 30 年 建設実施設計が完了 建築主体工事発注したが入札不調

今後は社会情勢を注視しながら再発注の時期を見極める。当面は既存の資料館や戦争遺構を活用し、教育旅行等の誘致促進を図っていく。

遺構整備

滑走路跡にモニュメントを設置 (平成 15 年)

戦争遺構巡り拠点施設「宇佐空の郷」開館 (平成 29 年 4 月)

落下傘整備所、耐弾式コンクリート造建物の保存整備工事完了 (平成 30 年)

城井一号掩体壕、爆弾池の保存整備工事完了 (令和元年)

3. 平和資料館

宇佐海軍航空隊の歴史や宇佐から出撃した特攻隊、宇佐への空襲などを紹介するための資料館です。映画「永遠の0」の撮影用に制作された零戦の原寸大模型が展示されています。

米軍がガンカメラで撮影した空襲の映像が見られ、当時の様子や空襲の恐ろしさを実感することができます。

人間爆弾「桜花」の原寸大模型の展示とその出撃方法の解説がなされています。

4. 平和教育の取り組み

学習プログラムとして、テーマを「我がまちも戦場であった歴史を学ぶ」「平和の大切さと命の尊さについて考える」として、事前学習、戦争遺構郡の見学、平和資料館の見学、事後学習によって、宇佐市ならではの平和教育の推進を図っていくとされている。教育旅行が、令和元年度 32 件、令和 2 年度 134 件、令和 3 年度 199 件と増加している。

甘木鉄道

【 視察項目 】 鉄道の経営改善と活性化について

【 目的 】 第3セクター甘木鉄道の経営改善と鉄道を育てる会の取り組みを学ぶ

【 内容 】

1. 甘鉄の歴史

1939年(昭和41年)に陸軍大刀洗飛行場の軍需物資輸送用として開通し、国鉄甘木線として運行されていた。基山～甘木駅間 13.7 km

戦後は、主にビール工場の貨物輸送が主力であったが、1981年(昭和56年)に第1次廃止対象線に選定された。しかし、沿線自治体や地域住民の「甘木鉄道」を残そうという情熱と行動により、1986年(昭和61年)に第三セクター方式の鉄道会社として運行を開始。

2. 経営改善の取り組み

開業以来、小郡駅の移設、新駅の設置、車両の増備(4両)、行き違い設備の増設2か所、列車集中制御装置、列車進路制御装置の導入、PC枕木化などを実施し、運行の安全確保や輸送力の増強に努められてきた。利便性、安全性を考慮してサービスを良くすることに取り組んできた。インフラを良くすることによって沿線の開発が進んできた。

平成15年4月から、朝夕の通勤・通学時間帯における15分間隔の運行を実施し、JR基山駅、西鉄小郡駅での乗り継ぎをスムーズにして利便性の向上を図ってこられた。

12駅(有人1、無人11) 車両8両、職員30人(正社員23人)、平日42往復、土日34往復

3. 運行状況

【過去10年間の輸送人員実績表】 (単位:人)

年度	通学定期		計	普通	合計	乗車割合(%)		
	通勤定期	通学定期				通勤定期	通学定期	普通
H24	408,532	416,226	824,758	505,192	1,329,950	30.7	31.3	38.0
H25	485,674	397,810	883,484	496,837	1,380,321	35.2	28.8	36.0
H26	481,804	377,812	859,616	503,792	1,363,408	35.9	27.7	37.0
H27	466,532	394,710	861,242	528,261	1,389,506	33.6	28.4	38.0
H28	466,008	381,744	847,750	517,481	1,365,231	34.1	28.0	37.9
H29	467,600	376,468	844,068	540,015	1,384,083	33.8	27.2	39.0
H30	496,672	363,546	860,218	562,761	1,414,979	35.2	25.7	39.1
R1	516,984	378,536	895,520	541,357	1,436,877	36.0	26.3	37.7
R2	425,840	264,664	690,404	389,472	1,059,876	40.2	25.0	34.8
R3	443,582	318,686	762,268	407,910	1,170,178	37.9	27.2	34.9

(単位:千円)

年度	収 入			支 出			経常利益
	鉄道	観光等	計	鉄道	観光等	計	
24	217,108	5,751	222,859	243,695	269	243,964	△21,125
25	221,752	4,606	226,358	252,675	206	252,881	△26,422
26	217,060	4,961	222,021	225,124	112	225,236	△3,215
27	222,473	2,715	225,188	226,094	63	226,157	△600
28	230,225	4,020	234,245	242,109	10	242,119	△17,871
29	224,838	10,726	235,564	230,186	0	230,186	5,378
30	229,622	5,293	234,915	231,741	143	231,885	3,030
1	230,601	13,601	244,192	242,803	118	242,921	1,271
2	168,414	7,582	175,996	245,134	485	245,619	△69,623
3	189,590	8,316	197,906	314,460	701	315,161	△117,256

コロナ禍前の平成29、30年、令和元年は経常収支は黒字になっている。

4. 甘木鉄道を育てる会の取り組み

①甘木鉄道を育てる会

産業・経済の振興及び住民福祉の発展を願って、甘木鉄道の長期的な安定経営の推進に寄与することを目的とする。

朝倉商工会議所、朝倉商工会議所 青年部、朝倉市区長会 2 地区、地区コミュニティー協議会 2 地区、朝倉青年会議所、筑前町区長会 4 地区、筑前あさくら農協 2 地区、ニュー甘木朝倉地区労センター、朝倉市女性連絡協議会の 15 人と個人加盟 25 人で、現在 40 人。

事務所は、甘木鉄道会社内に置く。

②イベントの実施

- ・たなばた列車の運行と車輜・駅の飾り付け…… 6月、7月
- ・コスモス列車 キリンビール福岡工場とコラボ…… 11月
- ・クリスマス列車…… 12月
- ・列車運転体験……朝倉市内の小中学生を対象に「わくわく体験プログラム」の一環として運転体験を実施。朝倉市のクーポン券2,000円分を利用して参加。

③ 広報事業

ホームページの充実、会誌の発行、列車・駅舎の装飾（七夕、コスモス、クリスマス）
沿線情報冊子の作成、サポーター拡大推進

福岡県筑前町

【 視察項目 】 大刀洗平和記念館の運営と平和教育について

【 目的 】 会館の運営、企画展の取り組みや平和教育の普及活動を学ぶ

【 内容 】

大刀洗平和記念館

① 設置目的

かつてこの地は戦前、東洋一とうたわれた旧日本陸軍大刀洗飛行場（1919年完成）があり、一大軍都として発展していた。しかし、昭和20年3月27日、31日に米軍による空襲で施設は壊滅し、多くの犠牲者が出た。犠牲者は、軍人や軍関係者だけでなく、民間人や下校中の子供たちにまで及んでいた。また、この飛行場は、特攻の中継基地として数多くの特攻隊員の出撃を見送った。

大刀洗平和記念館は、こうした歴史的事実を踏まえ、旧日本陸軍大刀洗飛行場の概要や歴史を紹介するとともに、特攻や大刀洗大空襲で亡くなられた方々への追悼と恒久平和のメッセージを発信し続けることを目的とする。

② 施設整備

(1) 名称及び所在地

名称 筑前町立大刀洗平和記念館
所在地 福岡県朝倉郡筑前町高田 2561-1

(2) 施設の概要（本館）

構造	鉄骨造平屋建
規模	敷地面積 8,768 m ² 建築面積 1,641 m ² 延床面積 1,883 m ²
事業費と財源（本館）	
用地費	166,977千円
業務委託費	33,872千円
建築工事費	392,129千円
外構工事費	73,490千円
展示工事費	269,798千円
付帯工事費	16,700千円
備品購入費	13,899千円
設計・施工監理費	40,378千円
合計	1,007,243千円
合併特例債	909,500千円(総債額95%の70%を交付税措置)
一般財源	97,743千円
合計	1,007,243千円

(3) 施設の概要（新館）

構造 鉄骨造平屋建
規模 延床面積 390 m²

事業費と財源（新館）

業務委託費	22,972千円
建築工事費	129,600千円
展示工事費	38,880千円
付帯工事費	10,376千円
備品購入費	9,612千円
合計	211,440千円
県補助金	100,000千円
合併特例債	91,847千円
一般財源	16,193千円
ふるさと納税寄付金	3,400千円
合計	211,440千円

・平成21年10月 本館開館

・平成29年4月 新館開館

・令和4年7月 海軍局地戦闘機「震電（実物大模型）」常設展示

③ 展示の特徴

- ・空襲、特攻のコーナーを設置。九七式戦闘機（実物）零戦艦上戦闘機三二型（実物）の展示
- ・映像「大刀洗 1945.3.27」を上映する「語りの部屋」の設置
- ・空襲で亡くなられた方々の遺影を顕彰する部屋の設置

④ 運営

- ・直営で 館長のみ職員で、会計年度任用職員が11人
- ・入館料 大人600円、高校生500円、小中学生400円
- ・開館時間 9:00~17:00

⑤ 入館者年度別集計表 令和4年10月末

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
4月	6,597	5,414	4,878	0	2,817	3,476
5月	11,466	9,201	9,992	0	1,053	6,648
6月	9,866	7,053	6,656	1,631	1,192	4,294
7月	5,808	5,288	5,161	2,137	4,101	7,018
8月	8,868	9,722	9,421	6,369	1,070	10,294
9月	9,994	9,707	9,698	4,423	0	7,317
10月	16,399	15,409	17,340	8,264	10,340	13,012
11月	13,305	14,432	14,799	8,801	13,716	
12月	4,031	4,541	3,757	3,867	8,403	
1月	3,361	3,733	3,967	1,056	2,349	
2月	4,449	4,859	4,600	1,485	1,910	
3月	6,384	5,422	272	3,365	3,785	
合計	100,528	94,781	90,541	41,398	50,736	52,059
			休館3/4~3/31	休館4/1~5/31	休館5/12~6/20 8/8~9/30	

⑥ 平和教育の普及活動

- ・小中学生の解説書を作成し、戦争を知らない世代が平和を考える学習の場となる様努めている。社会見学、修学旅行での正しい平和に関する学習・歴史学習を提供する。
- ・定期的にイベント・企画展を開催することにより、各年齢層の教育普及に努める。映像上映・朗読により、命の尊さや平和の大切さを訴える。
- ・小中学校・高校など教育機関、地域公共団体、旅行業者やマスコミなどへの広報活動を強化する。

⑦ 他市町との連携

- ・大刀洗飛行場平和事業推進協議会（朝倉市、筑前町、大刀洗町）
旧大刀洗飛行場に関する平和事業に関わる事務の管理及び執行について、相互に連絡調整を図る。
- ・知覧特攻平和会館・万世特攻平和祈念館・大刀洗平和記念館連携協定（南九州市、南さつま市、筑前町）
陸軍沖縄特攻という共通の歴史をもとに、戦争の記憶の継承がより確かなものとなり、平和な社会の構築に向けて連携を図る。

《所感》

森元 清蔵

●宇佐市 「戦争遺構の保存と平和教育」

空がつなぐまち・ひとづくり協議会の構成市である宇佐市と加西市は、行政側では連携した取り組みがなされている。議会側としても宇佐市とつながりを持ちながら、お互いに戦争遺構の保存と平和教育の普及を図っていかねばならないと思います。

加西市の旧鶉野飛行場で訓練を受けた航空隊員が、宇佐市の海軍航空隊で再び訓練を受け出撃したり、昭和20年4月以降は特攻隊出撃がなされている。こうした一連の流れとして、戦争の悲惨さを伝える必要があると思う。

宇佐市は、昭和20年3月18日以降、11回の空襲を受け、多くの犠牲者と空襲の爪あとの残った建物が残っている。特に平和資料館の展示で、米軍の軍用機のガンカメラが撮影した襲撃の瞬間の動画の記録は、衝撃をうけた。宇佐市には、ガンカメラの分析をしている「豊の国宇佐市塾」という団体があるようで、日本各地の空襲のガンカメラの分析がなされていけば、戦争当時の被災地の様子や戦争の怖さが鮮明になるのではないかと思う。姫路や加西の空襲の記録分析に宇佐市と連携した取り組みができるのではないかと思う。

宇佐市平和ミュージアムの意義と目的で、戦争の歴史を明らかにするとともに、多くの人々に「平和の大切さと命の尊さ」について考える機会を提供するとしています。

「Sora かさい」においても、体験者の証言や資料をもとに鶉野飛行場建設から始まる「戦争の歴史」の展示や説明を充実することが必要と思う。

「平和の大切さ」や「命の尊さ」を考える機会を提供するという目的にむけて、資料の整理や展示方法等を考えることが必要。

●甘木鉄道 鉄道の経営改善と活性化について

第3セクターになってから、利便性と安全を念頭にサービス向上に取り組んできたおかげで、周辺も開発され人口が増え、乗客数も増えてきている。行き違い設備を3か所つくり、朝夕15分間隔運行になり、JRや西鉄との乗り継ぎがスムーズになり利便性をたかめている。また、半数の駅には駐車場が整備されている。利便性を向上することで乗客増になっていっている。北条鉄道においても、利便性向上に向けていっそう努力していかなければならない。

●大刀洗平和記念館の運営と平和教育について

記念館の展示スペースが広く、展示内容が詳しくじっくりみることができた。

「大刀洗 1945.3.27」シアター映像で、空襲被害とその地の現在を重ねて説明されていて、子供たちにもわかりやすい説明になっていた。戦死された兵士についての資料展示も多く戦争の悲惨さを十分に感じ取れた。

「Sora かさい」において、戦争の悲惨さや愚かさを考え、感じ取れる資料展示、企画をしていく必要がある。

この度の視察は、戦争遺構の保存、史料館を視察し平和学習にどの様に取り入れて行けばよいのか、又甘木鉄道の運営について説明を聞き、鶉野ミュージアムのあり方、北条鉄道の運営との違いについて視察を行いました。

宇佐市 『戦争遺構の保存と平和教育について』

宇佐市では遺構が数多く点在しており、民間の所有地にも遺構が残されている。そういった遺構を平和教育に役立てようと平和ミュージアム建設に取り組んでおられているが、前回の入札結果は不成立となり現在は諸材料の高騰、コロナ禍等で進んでいないようである。資料館が2箇所もあり、まだ数多くの史料が宇佐市には寄贈されていると思いますので、平和学習、地域の遺構として歴史を伝えるためにも早くに建設が必要と感じました。

甘木鉄道 『鉄道の経営改善と活性化について』

甘木鉄道は昭和14年に軍需輸送のために設置された鉄道であり、昭和56年に廃線の話が出ていたが協議会の存続要望を踏まえて第三セクター鉄道としてスタートしている。

営業距離は北条鉄道とほぼ同じ13,7km、社員も30名で車両は8両も保有している。沿線はJR、西鉄との接続駅が2箇所もあり、学校・企業が多くあり住宅開発も進んでおり北条鉄道と条件が相当開きがる様に思いました。

しかし、住民サービスには熱心に取り組まれ交差運用により便数の増、イベント列車等も行われている。民間の鉄道には欠かせないものなのか鉄道応援隊があり様々な行事に参加している。しかしながらコロナ禍により昨年、一昨年は大きな減収減益となり、乗降者数により左右されている。

北条鉄道とは明らかに沿線の状況が違い、加西市に於いても今後沿線の開発が必要で住宅地の開発、企業の誘致、又コミバスの発着駅にして加西市民の足として考える必要があると思いました。

大刀洗平和記念館 『記念館の運営と平和教育について』

大変立派な記念館であったのが印象です。戦争遺構であり、数多くの史料が展示されており当時の面影が見えるように展示されていた。多くの軍用機も実物機、再現されたものも多く展示され迫力を感じた。近年はコロナ禍で入館者数は半分程度に減っているが、年間10万人程度の方が訪れておられる。

展示物、資料、施設は十分満足しましたが、今回宇佐市、大刀洗町の資料館そして史料館を拝見させていただいたが、平和教育、学習が本当にできているのかと感じた。限られた時間、行動で説明を聞くこれで・・・自身がゆっくりと興味深い物を観察する事が学習、教育かと思いました。

鶉野ミュージアムも多くの修学旅行生を受け入れています。表面上の平和教育だとか学習ではなく生徒一人一人の思いをしっかりと受け止めてもらえるミュージアムになってもらえる様に外観ではなく中味(心)を動かす施設になるべき思いました。

◎大分県宇佐市「戦争遺構の保存と平和教育について」

市役所新庁舎内の議会議場の見学では、既にタブレット端末機の活用や議場でのデジタル採決やデジタル表示の導入等、議会のペーパーレス化が進んでいました。

数多くの歴史や文化遺産が遺る宇佐市。宇佐の宝として行政と地域が一体となり取り組む情熱が伝わってきました。資料館と戦争遺構群の整備をしながら、現在、教育委員会が中心となり、約4000点の資料収集が行われています。また、平和資料館では宇佐海軍航空隊の歴史や空襲などに関する資料が数多く展示されています。宇佐市は、近現代における戦争の歴史を明らかにするとともに、多くの人々に「平和の大切さと命の尊さ」について考える機会を提供するためにも、現在進行形で平和ミュージアム(仮称)建設を目指されています。

平和教育として、加西市との共通項は、歴史として我が町も戦場であったということの後世に伝えていくこと。今、時代がくだり、人から歴史を聞くということは難しいですが、現存している残されたモノが我が町の歴史を語ってくれるということ。それは、今を生きる私たちの使命でもあると感じました。

◎甘木鉄道…福岡県朝倉市

1981年(昭和56年)に国鉄再建法に基づく第1次廃止対象特定地方交通線(いわゆる赤字ローカル線)に選定されましたが、沿線自治体や地域住民の「甘木鉄道」を残そうという熱い情熱と果敢な行動により、1986年(昭和61年)に第三セクター方式の鉄道会社として運行を開始しました。

地域鉄道として、安心と安全、利便性を図ることに尽力され、今後は、技術の確保、運転士の確保(人員)、新卒を育てることなど、将来につなげる目標を掲げられています。13.7キロの甘木鉄道。加西市の北条鉄道と距離はあまり変わりませんが、対象人口も多く、地域住民が、JRや私鉄、地域鉄道をスムーズに利用されていると感じます。行き違い設備を2か所、朝夕の通勤・通学時間帯には15分間隔を実現されているところは、加西市は、まだまだ見習わなければならないと思います。また、甘木鉄道を育てる会がSNSを発信されていることは、とても頑張っておられると感じました。

◎大刀洗平和記念館…朝倉郡筑前町

この地域は、戦前、東洋一と謳われた旧日本陸軍大刀洗飛行場とその関連施設が広がり、一大軍都として発展してきました。しかし、昭和20年3月27日、31日を中心とした米軍による空襲で、施設は壊滅し多くの民間人や国民学校を下校中の子どもたちにまで犠牲者がでました。戦後70年以上が経過し、戦争という痛ましい事実が風化されつつある中、こうした歴史的事実、飛行場の歴史、特攻や大空襲で亡くなられた方々への追悼と恒久平和のメッセージを発信し続けています。新館増設の際には、様々な協力のもと、クラウドファンディングで1200万円を集められ、館内には世界で唯一の現存機、零式艦上戦闘機三二型の実物が展示されていました。

大刀洗平和記念館に到着した際、ちょうど修学旅行生がたくさん訪れていました。加西市同様、若い世代に歴史の真実と事実を伝えていくことは重要だと改めて感じました。

[所感] 下江 一将

1期目の議員任期4年間の内、新型コロナウイルスによって2年間は行政視察が取り組めなかった。今回の視察は久しぶりの機会であり、思い入れの強い行程となった。

【大分県宇佐市】 戦争遺構の保存と平和教育について

宇佐市には戦争の歴史を現在に伝える戦争遺構が数多く残っている。「平和の大切さと命の尊さ」を次代に伝えるものとして宇佐市平和ミュージアムを作っている。基本構想には平和ミュージアムが「宇佐の独自性を前面に出した施設」を目指すこと示されている。現地視察では掩体壕や落下傘整備所へ案内していただき、宇佐ならではの「もの」を見学し感動した。どの遺構も駐車場が整備され、周辺住民の利用のため公園化されている。地域住民とともに遺構を守り、平和を考える施設となっている。基本計画内の方針にも「歴史をつなぐ」、「場所をつなぐ」、「ひとつをつなぐ」と示されており、戦争遺構が活かされ、さらなる地域活性化がはかれることが楽しみである。市民からも約4000点の資料提供があるが分類できていないことや収蔵庫が不足して整理できていないことが課題として説明された。平和ミュージアムが完成することで多くの市民からも喜ばれることが想像される。

加西市も加盟している空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会は他市との交流があることで視野が広がり、一緒につくっている感じがあると伺った。加西市も宇佐市の独自性に学ぶことがあると感じたため、今後もより交流を深めていくべきだと考える。

【福岡県朝倉市】 鉄道の経営改善と活性化について

昭和56年9月18日に国鉄甘木線 第1次特定地方交通線廃止対象線路に選定承認される。その当時、14便7往復で、乗車人数は300~400人であった。その後、特定地方線対策協議会が開催され、県や国からも反対の声がありながらも第3セクターによる鉄道運用を行うことで合意し、昭和60年7月11日に甘木鉄道株式会社を設立している。

「観光や地域の知名度アップも務めてきたが第1に利便性と安全性の向上に力を入れてきた。」とお話ししていただき、これまでの取り組み内容からも一貫して行っていることがうかがえた。利便性を高めるために行き違い施設を整備し、朝夕の通勤・通学の多い時間帯を1時間間隔の運行から15分間隔まで縮められた。現在は便数も平日42往復、休日34往復となり、乗車人数も120万人を超えている。こうした地域に密着した鉄道づくりがインフラ整備となり、線路沿線の活性化(工場立地)にも繋がっている。北条鉄道でも行き違い設備によって5往復増便され、

朝夕は1時間間隔から30分間隔の運行となっている。この調子で継続して利便性の向上に取り組んでほしいと感じた。

沿線ガイドブックは北条鉄道にも参考になると考える。また、各種印刷物も沿線地域の企業などの広告も上手く活用されて地元鉄道を応援する連携が構築されていると感じた。さらに甘木鉄道では公式 Twitter にて利便性や安全性が伝わる内容の発信をしている。甘木鉄道は親しみやすい鉄道であり、参考になる内容が豊富であると感じた。一方、北条鉄道の場合は現状報告と企画の告知が中心となっているため利便性が高くなっていることや日頃の安全性向上の努力が十分に市民へ伝わっていない可能性があると感じた。北条鉄道も利便性と安全性の向上に向けて取り組んでいる様子も発信していくことで市民からの信用を築き、利用者や鉄道支援者になると考える。

【福岡県朝倉郡筑前町】 大刀洗平和記念館の運営と平和教育について

大刀洗平和記念館は予想していたよりもインパクトのある記念館の大きさと展示物に圧倒された。訪問した時間帯は多数の小学生が見学を終わった直後で大型バス数台に分乗していた。自分が見学をして、展示品や貴重な遺品類は小学生にとっても大変分かりやすく内容説明がなされ、大人から子供まで平和学習に役立つように工夫されていると感じた。

視察見学の最初にシアターで約15分間の映像鑑賞、それから説明を受けたため、理解も深まり館長からの説明も展示品の意味合いも創設の意味がよく伝わってきた。予定時間から延長となったが館長の熱のこもった説明が次から次と示され、思いが伝わった。

大人数の見学者を一度に受け入れられる記念館のスペースはゆったりとしており、見学時間も半日程度必要なほど展示が充実していると感じた。

【所感】 原田久夫

【大分県宇佐市】戦争遺構の保存と平和教育について

宇佐市の戦争遺構は、広大な宇佐海軍航空隊跡に数多く点在しており整備を進めているが、民間の所有地にも遺構が残されており一部の掩体壕が民有地で農業倉庫と使用している現状であった。しかし、市民の理解を得て平和教育の場として整備が進められている。

多くの方からの協力により関係資料が4千点余りを仮施設の平和資料館に保蔵している状態で、貴重な遺構を有効に平和教育に役立てたいとのことから、宇佐市平和ミュージアム建設に平成25年から取り組みされていたが、建築主体工事入札不調により資料館が完成していない。

遺構整備については、順次整備が進められているものの多くの貴重な史料が展示されていないことから宇佐市の歴史、平和教育の場として伝えるためにも早く平和ミュージアム建設が必要と感じた。また、鶉野飛行場跡地より数倍の面積に遺構が点在していることで、見学モデルコース「車、徒歩」で150分が必要であり見学コースに時間が掛かりすぎるように感じた。

これからの地域活性化と平和教育との融合が進めば素晴らしいまちづくりになると思います。

【福岡県朝倉市】甘木鉄道の経営改善と活性化について

甘木鉄道は、昭和56年に廃止対象路線に選定承認され昭和57年特定地方線対策協議会を発足され昭和60年に第3セクターによる甘木鉄道株式会社が設立されスタートしている。

営業距離は北条鉄道とはほぼ同じの13.7kmで社員が30名車両8両を保有している。

甘木鉄道の路線には、JR、西鉄との接続駅が2か所と高速バスとの接続駅があり沿線には、高等学校・企業・各駅付近には住宅開発が進められ北条鉄道とは条件が大きく異なる鉄道であった。また住民の足としてのサービスを基本に2か所に車両交差線路があり15分間隔で平日1日42往運行を行っている。

鉄道応援隊も活動が活発で北条鉄道のようにクリスマス列車等のイベント列車を始めPR活動にも積極的に取り組まれ様々な行事に参加している。

近年コロナ禍で減収減益となったが、本年は徐々に回復していると説明を受けた。

北条鉄道とは明らかに路線状況が異なっているが、加西市においても鉄道沿線の住宅開発、企業誘致、コミバスとの連携など市民の足として持続的に開発を進める必要があると思った。

【福岡県筑前町】大刀洗平和記念館の運営と平和教育について

大刀洗平和記念館は、甘木鉄道の大刀洗駅前に平成21年筑前町立として建設され、平成29年に新館が落成され広々とした展示場と研修室で構成されている。

記念館には、遺書、戦地からの手紙、陸軍、海軍の戦闘機の実機など数多くの史料が展示

されている。また会館内の一室では、映画上映、朗読により平和の大切さを伝えている。

近年は、コロナ過で入館者数が減少していると聞きましたが、今年は回復している。コロナ前には年間10万人程度の方が訪れていると説明を受ける。

記念館は、展示物をはじめ大刀洗大空襲の史料など素晴らしい展示内容と思います。しかし、修学旅行生に平和教育をどのように伝えていくべきなのかと考えさせられた。

鶉野フィールドミュージアムの「観光・平和学習」の拠点として、施設も大切であるが、平和の大切さをしっかり受け止められる教育の場としての取組が重要と考えさせられた。

〔所感〕 深田照明

【大分県宇佐市】 戦争遺跡の保存と平和教育について

- ・1939年10月、宇佐海軍航空隊は艦上爆撃機などの搭乗員を養成する練習航空隊として開隊し、真珠湾攻撃にも参加するほど優秀な搭乗員を育て前線に送り出していた。飛行場も終戦時には長さ1800m、幅80mまで拡張され、隊員も約6100名と姫路海軍航空隊より数倍大きな部隊であった。
- ・宇佐からも沖縄海域への特攻作戦に出撃し154名の若者が戦死されている。終戦前には幾度もB-29が来襲し大きな被害を受け、その爆弾の落ちた場所のひとつは爆弾池として、そのまま保存展示されている。飛行場跡には広い県道が作られ、歩道に飛び立つ特攻機を見送る人々のモニュメント像が設置され平和を願う場となっている。また掩体壕跡は祈りの場として千羽鶴もおかれていた。
- ・戦争の史実を伝える戦争遺跡群の保存と宇佐空の郷や宇佐市平和資料館などの展示施設をいかに生かし命の尊さと平和を学ぶ場として、どのように活用していくかは加西市も同様の課題であり両市の連携を深め協力関係を強めることが重要である。

【福岡県朝倉市】 甘木鉄道の経営と活性化について

- ・甘木鉄道は1939年、大刀洗飛行場の軍需物資輸送のために国鉄甘木線として開業し、国鉄の民営化に伴い1986年から第三セクターとして運行を開始した。基山駅から甘木駅間13.7kmで11駅、ディーゼル車両8両、人員30名で運行している。
- ・輸送人員は令和元年度が最高の143万人で経常損益が1271万円、コロナ禍で令和3年度は117万人前後と大きく減少し、△1億1725万円と経営が苦しくなっている。
- ・輸送人員は北条鉄道の4倍以上でJR鹿児島本線や西鉄天神大牟田線と直接接続していること、沿線にビール工場、大刀洗平和記念館や複数の高校があり、通勤、通学の定期券利用者が65%近くあることが強みである。
- ・開設当初は特に乗客を呼び込む施策を考えず静観していたが、平成15年度からは朝夕の通勤・通学時間帯の混雑回避のために15分間隔の運行を目指し、行き違い設備の増設や車両の追加購入で乗客確保に攻めの姿勢で頑張っておられるのはすごいと感じた。
- ・関係市や企業、地域団体などで構成する甘木鉄道を育てる会の応援もあり、イベント列車の運行・運転士体験などを企画して経営改善と活性化に努力されていることは北条鉄道の運営活性化にも生かせるので両社の交流が深まることを期待したい。

【福岡県筑前町】 大刀洗平和記念館の運営と平和教育について

- ・大正8年、東洋一と言われた陸軍航空隊基地として広大な飛行場が作られ、昭和20年3月の米軍の大空襲で壊滅的な被害を受けるまで、全国の陸軍飛行士約1万人を養成した場所で特攻隊員の出撃も多く、見送りの場所として平和を願う地となっている。また、20年3月の空襲で国民学校の児童31名が逃げていた「頓田の森」に爆弾が落ちて亡くなった史実は痛ましい限りである。
- ・いまは飛行場施設のほとんどがなくなっているが、大刀洗飛行場の歴史を守るとともに平和の大切さを後世に正しく伝える施設として資料館が整備され、近隣の小学生や中学生をはじめ、北海道や東北など全国から高校生が訪れ、当時の日本人の思いを知り平和を考える場となっている。
- ・基本的な映像や常設展示の更新は予算的に難しいが、時期とテーマを決めた企画展の開催でリピーター確保をされている運用体制はSoraかさいの運営にも十分生かせると思う。

◆大分県宇佐市 『戦争遺構の保存と平和教育について』

真新しい市庁舎の一角にある本会議場を見学。2年前にタブレットを導入し、昨年から文書共有システムを活用してペーパーレス化に完全移行されている。本会議の採決もボタンで操作、瞬時に議員名の入った大スクリーンに表示される最新の設備が整っている。

文化財の宝庫とも呼べる数多くの歴史・文化遺産が残る宇佐市。その多くの『宝』を次の世代に大切に引き継ぐ行政の強い思いが伝わってきた。文化財保護宣言都市として先人が築き上げた貴重な文化財を市民全体で保護するという市民意識の高揚を図りながら、平和ツーリズム推進のために拠点施設を整備しながら講座の開催等にも取り組まれている。

実物大のゼロ戦21型模型が展示されている平和資料館では、宇佐海軍航空隊や特別攻撃隊の歴史と遺品、空襲の様子等が分かる。実践訓練を行う航空隊の基地やその周辺は、米軍による空襲を繰り返し受けたことも解る。平和の大切さと命の尊さを考える機会を提供する、歴史をつなぎ、場所をつなぎ、人をつないでいくために、平和ミュージアムの早期の完成を目指したいとの思いのこもった説明に感銘を受けた。今後も加西市との連携強化をお願いした。

◆福岡県朝倉市・甘木鉄道 『鉄道の経営改善と活性化について』

「利用しやすい鉄道」「親しみやすい鉄道」「魅力ある鉄道」「安全・安心な鉄道」の実現にむけて日々努められている。が、コロナ蔓延により大打撃で経営は厳しいとのこと。利便性向上で朝便は15分間隔で運行するため13、7キロ間に3ヶ所の交差施設を整備。枕木は、安全性の確保と保守経費の軽減を図るためにコンクリート製に順次交換している。今後は新車両の導入の資金確保、JR退職者の補充による技術の継承も限界で、若手社員の養成を図る事など課題は山積している。関係機関には、上下分離方式の導入を絶えず働きかけているとのこと。

甘木鉄道を育てる会の取り組みも参考になる。各種団体の代表者や個人会員40名で組織され、列車運転体験や各種イベントの開催など精力的に取り組まれている。特に、『あまてつ』を利用したJR九州ウォーキングは参加者多数。育てる会の運営資金は、甘木鉄道と行政の補助金で賄われており、年1回の定期総会も開催されている。

短時間の視察ではあったが、地域鉄道の使命と重要性の説明など、『あまてつ』の強い信念と熱い情熱を感じることができた。

◆福岡県筑前町 『大刀洗平和記念館の運営と平和教育について』

戦前、東洋一と言われた大刀洗飛行場は、軍都として栄えたが、昭和20年3月には米軍の空襲で壊滅的な被害を受けた。特攻隊の中継基地として多くの特攻隊員を見送った場所であり、今も残された戦跡が戦争の傷痕を伝えていると説明を受けた。合併時のオンリーワン事業に位置付け、平成21年10月に約10億円の事業費で新設、平成29年4月に2.1億円で新館を増設して、見学だけでなく座学の研修室も充実している。

資料の収集と保存活動に絶えず取り組みながら、小中学生向けの戦争を知らない世代が平和を考える学習用に解説書なども作成している。戦争の痛ましい事実を踏まえ、戦死者への追悼と恒久平和のメッセージを発信するために、小中学校や高校などの教育機関や地域の公的な団体、旅行業者やマスコミへの広報活動も強化され、大変参考になる視察となった。

21 政会・加西ともに育つ会
行政視察 行程表

11月16日(水)

08:04 姫路駅発(ひかり531号)
09:54 小倉駅着〔乗り換え〕
10:10 小倉駅発(特急ソニック11号)
10:53 柳ヶ浦駅着
11:20 宇佐市様迎え

昼食

↓宇佐市様迎え

13:00~15:00 宇佐市視察「戦争遺構の保存と平和教育について」

※視察終了後、宇佐神宮まで宇佐市様送り

16:49 宇佐駅発(特急ソニック44号)
18:28 博多駅着 → 博多にて宿泊

11月17日(木)

7:58 博多駅発(JR鹿児島本線)
8:37 基山駅着〔乗り換え〕
8:48 基山駅発(甘木鉄道)
9:15 甘木駅着
9:30~10:30 甘木鉄道視察「鉄道の経営改善と活性化について」
10:44 甘木駅発(甘木鉄道)
10:49 大刀洗駅着
11:00~12:00 大刀洗平和記念館「大刀洗平和記念館の運営と平和教育について」

昼食

13:12 大刀洗駅発
13:32 基山駅着〔乗り換え〕
13:41 基山駅発(JR鹿児島本線区間快速)
14:09 博多駅着〔乗り換え〕
14:54 博多駅発(のぞみ40号)
16:00 広島駅着〔乗り換え〕
16:06 広島駅発(のぞみ116号)
17:01 姫路駅着



宇佐市



甘木鉄道



大刀洗平和記念館